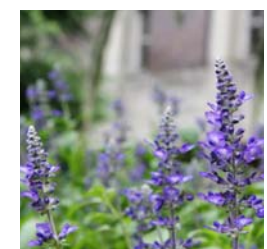
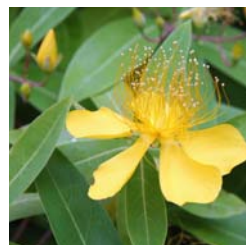


2009 SPRING Vol.11

KOBE
university

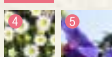
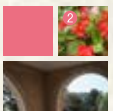
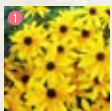
STYLE

神戸大学

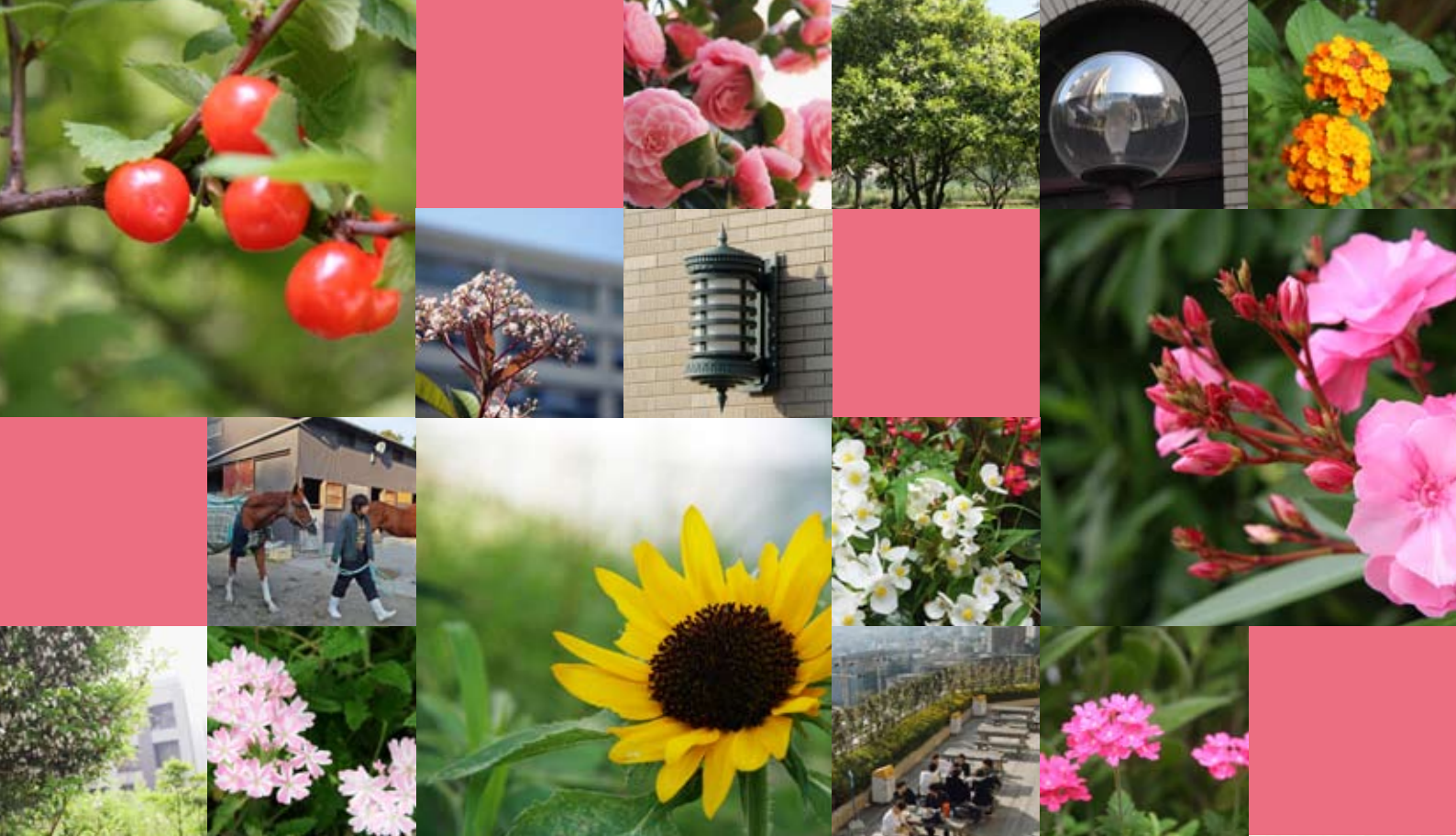




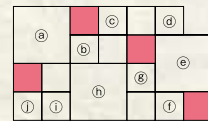
K O B E U N I V E R S I T Y



- ① ルドベキア
- ② ベゴニア
- ③ キョウチクトウ
- ④ ノースポール
- ⑤ アサガオ
- ⑥ ビヨウヤナギ
- ⑦ ブルーサルビア



U N I V E R S I T Y S T Y L E



- Ⓐ ユスラウメ
- Ⓑ ベニカナメモチ
- Ⓒ オトメツバキ
- Ⓓ ランタナ
- Ⓔ キョウチクトウ
- ① バーベナ
- ② ベゴニア
- ③ ヒマワリ
- ④ バーベナ
- ⑤ ドウダンツツジ

I N D E X

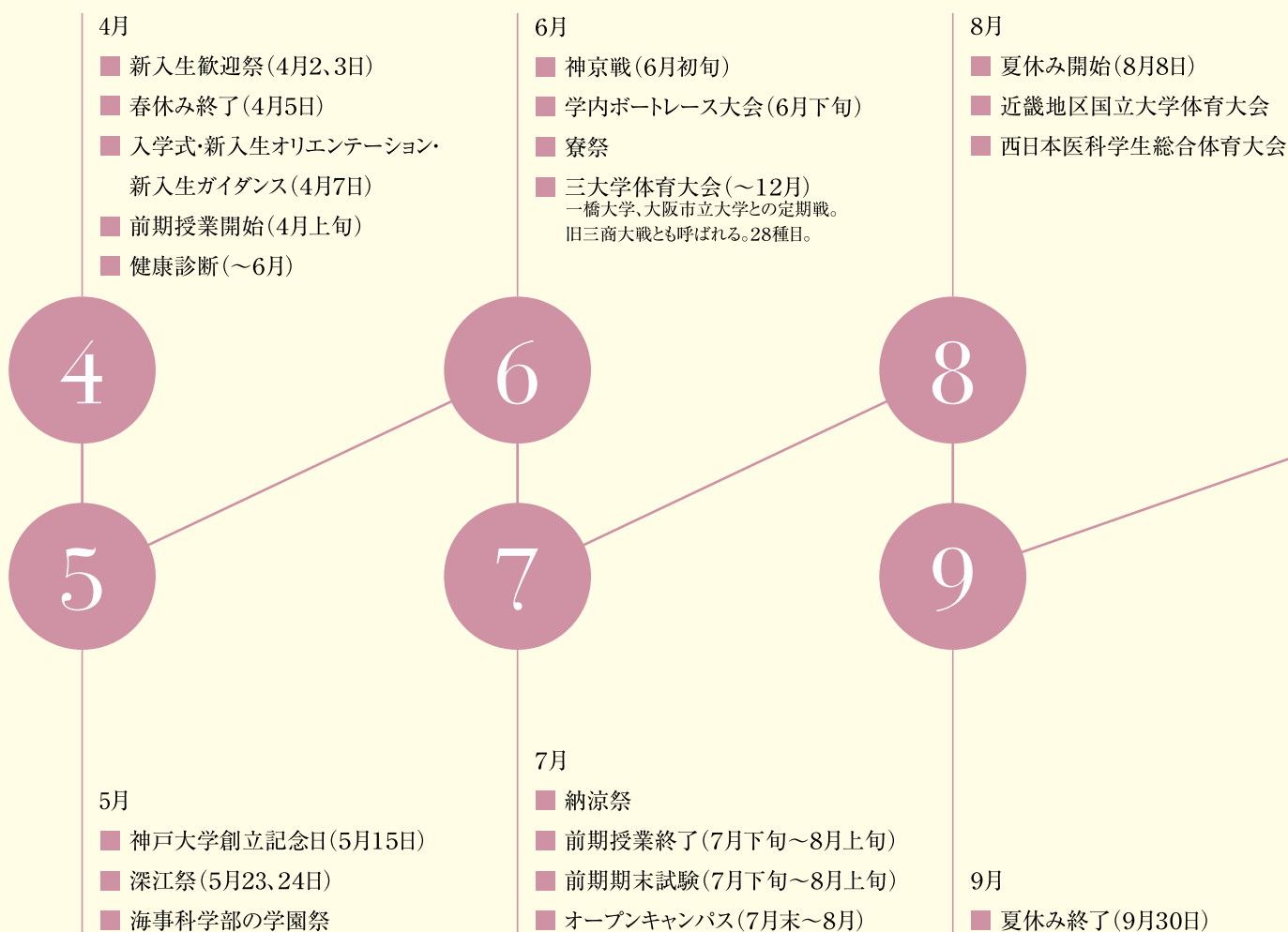
CAMPUS LIFE	
CAMPUS CALENDAR	03
サークルの地域貢献	05
特集・食資源教育研究センター	07
神戸大学ゆかりの歌	13
新学長に福田教授	15
同窓会・校友会・育友会	16
保健管理センターだより	19
歴史のひとこま	21
神戸大学生の愛唱歌	22

CAMPUS CALENDAR

神京戦 (6月初旬)

神戸大学では様々なクラブが他大学と定期戦を行っていますが、その中でも京都大学との間で30回以上に渡って続いているのが、硬式野球部の神京戦です。神京戦はクラブ同士だけの戦いではなく、学校を挙げてのイベントとなっており、毎年、国際文化学部B棟前で京都大学応援団と合同で前夜祭を開いています。当日の本戦はもちろん両校の応援合戦になりますが、これを機会に、一般の学生の方にも一応援の楽しさや熱さを知ってもらえればと思っています。今年は京都大学のグラウンドで行われるので少し遠いですが、私達応援団と一緒に熱く燃える応援ツアーはいかがでしょう。

応援団総部 萩原七恵 (国際文化学部4年)



近畿地区国立大学体育大会

近畿地区の12の国立大学が会し、17種の競技を通じて、課外活動の健全な発展と大学間の親睦を図ります。今年で第47回を数える歴史ある大会です。私たち卓球部は前回大会で準優勝に甘んじ、4連覇を惜しくも逃してしまいました。この雪辱を果たすために、日々練習に励んでいます。形式は団体戦のトーナメントで、試合に出るメンバーと応援のメンバーが一丸となり戦います。新入生を加え春から作り上げてきたチームの結束力が試される重要な大会の1つです。

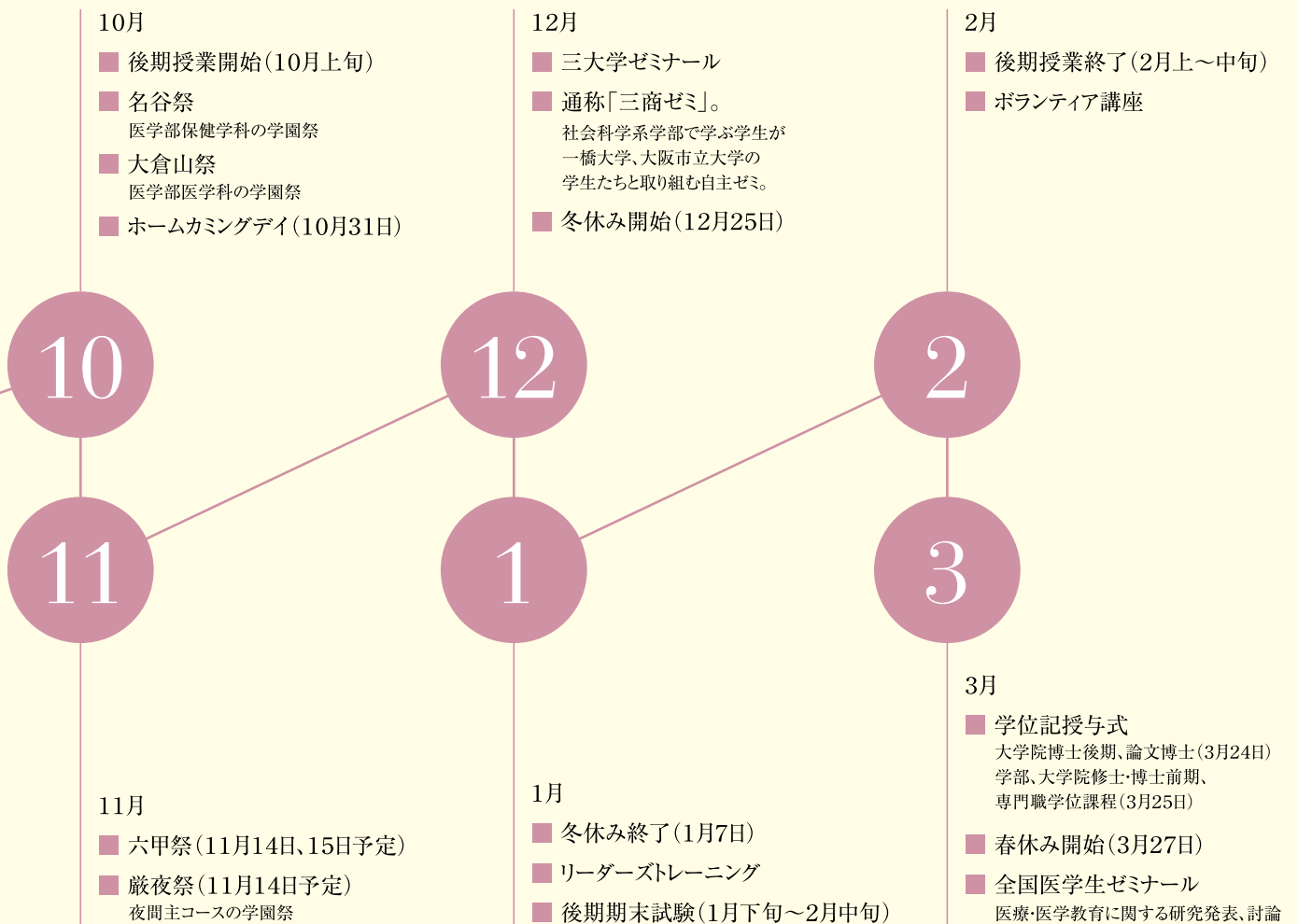
卓球部 長谷徳浩 (経済学部4年)



リーダーズトレーニング

リーダーズトレーニングは文化系、体育会系の各部や、応援団の次期リーダーたちが集まる研修会です。このように様々なクラブのメンバーが一堂に会する機会は他にありません。リーダーの指導力養成と、クラブ相互の連帯を深めることが目的です。よいリーダーとは、リーダーシップとは何なのかについて講演があり、グループに分かれた討論会ではクラブの問題点や解決方法について意見を交わします。部活動をしていく上で大切なことを学べる、貴重かつ有効な場であると思います。

体育会 徳丸希望 (文学部3年)



六甲祭(11月14、15日予定)

関西で最大級の規模を誇る神戸大学の六甲祭は、今回で30回目を迎えます。プロのアーティストによるコンサートをはじめ、著名人による講演会、いろいろなサークルやゼミに所属する学生による模擬店や展示会など、楽しい企画が盛りだくさんです。30周年を記念した企画も催す予定で、最初から最後まで、老若男女、誰でも楽しめる期間違いなしです。ぜひお越しになって六甲祭を味わって下さい。

六甲祭実行委員会 土屋宏太 (工学部3年)



サークルの地域貢献

神戸大学は、大学の進路を指し示す「ビジョン2015」を策定し、大きな柱として「卓越した社会貢献」をうたっています。地域に貢献するため地域連携推進室を設け、様々な地域連携事業を展開してきましたが、2008年度は初めて、学生の地域貢献活動を支援することになりました。地域の活性化につながる企画で、日ごろの活動の幅をさらに広げようとする学生団体に、経費の一部を支援する試みです。学内公募の結果、フットサル部「フォルサ」と児童文化研究会が選ばれました。フットサル部は決定後、全国大会で大学日本一にも輝きました。児童文化研究会は、100年近い伝統を持ちます。

小学生にフットサル指導 — 全国大会優勝も

「フォルサ」前代表

小仲 貴文 (2009年発達科学部卒)



大学日本一に輝く。後列左端が筆者

「全日本大学フットサル大会2008」(主催:財団法人日本サッカー協会)は2008年8月、大阪・舞洲アリーナで行われました。予選を突破した16チームが集い、大学日本一を決める大会です。神戸大学フットサル部FORCA(以下フォルサ)は兵庫予選、関西予選を勝ち抜き、本大会に出場しました。

予選リーグは宮崎産業大学サッカー部、北海道大学フットサル部、順天堂大学フットサル部と連破し、決勝トーナメントに進みました。準決勝の相手は、前回の覇者であり、フォルサが同じく準決勝で涙をのんだ相手でもある流通経済大学サッカー部でしたが、リベンジを果たすことができました。決勝では福山大学サッカー部に12-2で勝利し、悲願の大学日本一を決めることができました。

この優勝は、日本フットサル界にとっても大きなものとなりました。前は、フットサルの大会でサッカー部が優勝するという現実の前に、本当に悔しい思いをしましたが、1年間頑張ってきた結果、悔し涙を嬉し涙に変えることができました。

フォルサは、2004年にサークルからフットサル部に昇格した新しい部です。08年末現在、選手25人、スタッフ7名で活動しており、練習は週4回、大学の体育館か神戸市内のフットサル施設で行っています。監督はおらず、練習のメニューや試合のメンバーも自分たちで決めています。フットサルは大学から始めるメンバーがほとんどの中で、個人で足りない部分を組織でカバーしていくことを徹底して、現在は、大学生チームとして唯一、社会人の関西リーグに所属しています。

また、競技面だけでなく、普及振興面にも積極的に取り組んでおり、08年度はカレッジフットサル2008inKOBÉと小学生クリニックを開催しました。カレッジフットサルは、神戸市ワールド記念ホールで大学生による大学生のための大会を行い、全国から12チームが参加しました。様々な地域の大学生が互いのプレーを学び合うことで、大学フットサル界全体の発展につながればと思います。小学生クリニックは、地元の小学生と保護者の方々を大学の体育館に招待し、フットサルを教えることで、フットサルの裾野の拡大と地域の方々との交流を図ることを目的としました。

大学の体育会として活動を行うことを通して、高校までよりもっと主体性や責任が問われると感じました。今までは、当たり前のように運動をする環境が与えられ、自分たちが楽しくできていればそれでいいという面がありましたが、大学では、自分たちで環境を作っていかなければなりません。また、自分たちがボールを蹴るだけではなく、社会に貢献していける組織でなければならぬと考えています。高校までとは違った自分を成長させる楽しみがあるので、後輩たちやこれから入ってくる新入生にも、ぜひその姿勢を忘れないでほしいと思います。

■ フットサルとは

FIFA(国際サッカー連盟)が管轄し、ワールドカップも存在する公式のスポーツ。室内サッカーとして世界各国で楽しまれてきたが、1988年にFIFAが統一し、5人制室内サッカーのルールを制定した。競技名は、スペイン語でサッカーを表すfutbolと室内を表すsalonの合成語「FUTSAL」。



キャンプや巡回公演 — 子どもの笑顔見たくて

児童文化研究会代表

立見 瑛美 (発達科学部4年)



子ども会キャンプの夕食作り

私たち児童文化研究会(通称「童研」)は、1913(大正2)年に創設された歴史ある団体です。所属する学生の人数や子ども達をとりまく環境は、時代とともに変化してきましたが、「子どもの笑顔が見たい!」という願いは常に変わっていません。地域の方々のご理解、ご協力のもとで、童研の活動は成り立っています。

私たちは3つのグループに分かれ、子ども会や遠足、児童劇、人形劇、ゲーム大会など、様々な活動をしています。私は人形劇グループに所属し、脚本から人形まで全てオリジナルのものを制作し、児童館等で公演しています。他グループも、ゲームに使う器材や児童劇の舞台美術、衣装など、全てが学生による手作りです。

「オリジナルのものを作る」ということは、とても大変なことです。それが、子どもを対象としたものなら、なおさらです。ルールはわかりやすいか、脚本に難しい言葉や暴力的な言葉はないか、器材の数は足りるのか。部員全体やグループ内で、繰り返し検討を重ね、ようやく企画や脚本ができあがります。活動時間外にも部室を訪れ、制作に取り組む学生がたくさんいます。

私自身、自分の考えた脚本や企画は、果たして本当におもしろいのだろうか、と何度も悩みました。でもそのたびに、打ち合わせ先の方々をはじめ、たくさんの人に励まされました。特に童研の仲間たちには、深夜まで一緒に制作をしたり、悩みを相談し合ったりしながら、いつも支えられてきました。

中でも一番励まされるのは何といっても、子どもたちの笑顔を

見たときです。必死にゲームに取り組んだり、舞台上に釘付けになっている子どもたちの姿を見ると、それまでの苦勞が吹き飛んでしまいます。キャンプや劇のあと、子どもたちにもらった手紙からは、「楽しかった!」という声が聞こえてくるようで、うれしくなります。企画のとき、製作のとき、こういった子どもたちの笑顔を思い浮かべることで、がんばろう、と思えます。

2008年に大学からいただいた地域貢献助成金は、夏季合宿に役立てました。童研にとって、もっとも大切な恒例行事のひとつで、兵庫県北部(主に豊岡市や美方郡香美町)を巡回し、公演やキャンプを実施します。学生は約10日間、香美町立香住第二中学校の冬期寄宿舎を借りて拠点にし、合宿生活を送ります。毎朝、9人乗りバン2台で出発し、グループごとの活動を終えて宿舎に帰ってきます。泊まりキャンプの場合は、キャンプ地で子ども達と寝泊りです。学生はそれぞれ合宿費を負担し、運営費の一部もまかなっています。今回は助成金を、バンのレンタカー代にあてることができました。

これからも、子どもの「楽しかった!」の声を原動力に、地域の笑顔作りのお手伝いができたら、と考えています。

■ 2008年度の合宿活動報告

	子ども会	児童劇	人形劇
8月18日			西本子ども会
8月19日	城崎子ども会 キャンプ	香美町立 餘部小学校	城崎健康福祉センター
8月20日		豊岡市立 竹野南小学校	香美町立 佐津小学校
8月21日		Aity内 豊岡市民プラザ	
8月22日	御又子ども会 デイキャンプ	香美町立 柴山小学校	八条わいわい教室
8月23日			香住文化会館
8月25日	出石ふれあいキャンプ	豊岡市立 弘道小学校	竹野町ふれあい会館
8月26日			五荘放課後児童クラブ
8月27日	長井小学校(児童劇公演、及びゲーム大会)		
8月28日	長井地区キャンプ		



児童劇の後、子どもから質問を受ける



ブランド生み出す「大学農場」 農学研究科附属食資源教育研究センター

神戸市灘区の六甲台キャンパスから北西へ約60km、兵庫県加西市鶉野地区に広大な農地が広がっています。神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センターです。農学部生の実習教育の場として親しまれるだけでなく、「神戸大学ブランド」の農産物を生み出す「大学農場」として、広く知られるようになりました。40haの広大な敷地（甲子園球場約10個分）に、水田、和牛の放牧地や牧草地、野菜畑、果樹園が散在しており、周囲の農村風景にとけ込んでいます。

歴史と役割

食資源教育研究センターは2003年4月、農学部附属農場を母体として、生物資源開発から生産まで実学の教育を担う組織として設立されました。その附属農場は、前身である兵庫農科大学の篠山農場、加古川農場、今田牧場が国立移管・統合され、1967年4月に発足しましたから、その後約40年間に渡って、農学部生に対する農場実習教育の場の役割を果たしてきたこととなります。

センター設立の理念は、農学研究科と連携して循環型持続的社会的実現を目指し、多様な生物資源の持続的利用に関する教育研究を行い、アグロバイオサイエンスの進展ならびに地域および国際社会等に貢献することと明記されています。2004年に神戸大学が法人化され、個性ある大学としてアピール力が求められるのと時を同じくし、センターの生産物のブランド化戦略も幕を開けました。2005年3月には繁殖牛舎が新設され、農学研究科との研究成果や開発した技術を使って高水準の牛群を育成し、かつ収入を確保して安定的経営を図るなど、ハード面、ソフト面共に着実に発展してきました。

センターの役割は従来と比べてより一層多様化してきました

が、農場実習が基本にある点は変わっていません。農場実習の目的は農業生産の幅広い体験を通じ、総合的技術体系として農業の特質を学ぶことにあります。すなわち、栽培・飼養管理に関する幅広い実習を生産者規模で行い、基礎的知識や技術を理解・習得するとともに、農畜産物がどのように消費者に流れ、産業として成り立っているのかを理解し、農業・農学への思索に発展させることにあります。食料生産の現場と消費者との間の距離がますます離れてしまっている現代では、農場実習の重要性がより大きくなっています。

センターは生産フィールド部門、資源開発部門、連携利用部門の3つの基幹部門で構成されており、教員9名（うち専任5名）が配置されています。生産フィールド部門には13名の技術系職員による技術部生物生産技術班があり、作物系、果樹系、畜産系に分かれて農場実習などの教育活動や研究活動とともに、これらの基盤となる農作物の生産活動に従事しています。連携利用部門は研究プロジェクトの企画・推進・評価や、農業関連の民間企業および地場産業との連携研究・受託研究の推進などの役割があります。

教 育

応用植物学コースの農場実習では、2年生を対象に4月中旬から7月下旬まではほぼ週1回日帰りで実習が行われます。自主栽培と称して各自好きなものを栽培したり、5株のナスを一人一人育て出荷規格にあったものの収穫本数を競ったり、大きなブドウの木を枝単位で学生に管理させ収穫した房数を競っています。これらの収穫物は自分のものとして収穫の喜びを直接味わうことができ、学生たちに高いやる気を起こさせています。3年生になると、応用動物学コースでは牧場実習が5月、9月および10月に2泊3日ないし3泊4日の泊まり込みで実施されます。飼養管理、トラクターの運転実習、牛体重測定、和牛審査、飼料作物であるトウモロコシの収量調査、ニワトリの解体実習などが行われます。

この他にも、所属するコースによって異なりますが、5月中旬から12月中旬にかけ、主に2泊3日でそれぞれ合計4回ほどセンターで宿泊実習を行います。この実習では農家レベルの生産技術の習得を目指しています。田植え、パレイシヨ収穫・調製、ナシの摘果、ブドウの無核化処理、キャベツ定植、タマネギ調製、ナシ・カキ・ブドウ収穫・調製、稲刈りなど植え付けから収穫まで一連の栽培技術の習得を目標としています。

これらの生産物が一般の消費者に販売され評価されることで、学生たちは生産現場と消費者との距離感を把握できます。このように生産技術や知識を習得するだけでなく、農業をとりまく状況や問題点を体感することも大事な収穫物の一つと考えています。

■ 作目、作付面積、飼養頭数

(単位:アールまたは頭数、2008年度実績)

類 別	作目(品種名)	作付面積・飼養頭数
作 物	イネ(キヌヒカリ、ヒノヒカリほか、酒米社氏の夢)	855
	ダイズ(サチユタカ)	30
野 菜	パレイシヨ(ネオデリヤス、らんらんチップ、多品種)	22
	サツマイモ(紅高系)	8
	タマネギ(ターザン)	5
	キャベツ(YR冬どり錦秋ほか)	10
果 樹	ナシ(幸水、豊水)	60
	ブドウ(ピオーネ、藤稜)	55
	カキ(平核無)	68
	クリ(銀寄、国見)	24
畜 産	黒毛和種成畜	53
	黒毛和種育成畜	51
	肉用鶏	30
	イタリアンライグラス	1112
	ソルゴー	130

研 究

研究面でユニークなのは、遺伝・育種学を専門分野とする教員で構成されていることです。食料生産フィールドの立地を活用し、効率のいい育種プログラムの策定と新しい育種素材の開発を目指し、動植物遺伝資源を材料とした研究を国際的なレベルで行っています。

「植物遺伝資源開発学」分野では、DNAを分析して栽培パレイシヨとその近縁野生種の起原・進化および遺伝現象を明らかにしようしたり、絶滅が危惧される野生ナシの保全と育種利用を目的として「野生ナシ遺伝子銀行」事業を展開し、栽培品種にはない有用形質を評価したりしています。また、イネの開花期や草丈などを支配する遺伝子を、効率的に探し出す方法論の確立を目指しています。

「動物遺伝資源開発学」分野では、和牛の集団において有用な形質がどの程度遺伝的要因に支配されているのかといった遺伝性などの調査や、効率的な改良を進めるための新たな指標や方法論について研究しています。また和牛の繁殖、肥育をはじめとする飼養管理に関する試験など、現実の生産活動に直結した教育研究にも積極的に取り組んでいます。

今後の目標として、個々の研究結果とセンターのブランド戦略とのより一層の融合が望まれます。2008年末時点で、それぞれの研究分野にはフィールド研究に興味を持つ14名の学生・大学院生、海外からの客員研究員が在籍しており、日夜教育研究に励んでいます。



タマネギの収穫実習



研究用に各地から収集した野生ナシ



個体識別番号 11770-8453-3		
名号	神則武	
性別	オス(去勢)	
生年月日	2008年4月5日	
血統	父牛	光照土井
	母牛	ゆうこ
	母方祖父牛	菊高土井
生産者	神戸大学大学院農学研究科	
肥育者	神戸大学大学院農学研究科	
出荷年月日	2008年10月29日	
出荷先	加古川焼肉地方卸売市場	
格付	A4-7	
遺伝子型	SCD	A/A
	SREBP	L/S

神戸大学ビーフはすべて、個体識別番号を表記しています。この番号をセンターのホームページ(<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-foodres/>)で見れば、牛の血統や格付、どんな餌や薬を与えたかが、ひと目で分かります。

「神大ブランド」の誕生 From Farm to Table

センターは教育研究機関であるという性質上、学生たちの農牧場実習を通して実に多種多様な作物を生産しています。この生産物の販売収入はセンター運営に不可欠なものであるにも関わらず、過去には生産物自体はむしろ教育研究活動の副産物として捉えられてきた経緯があります。しかし国立大学の法人化に伴い大学の個性と競争力が強く問われる時代となり、生産物を教育研究の成果として積極的に世に送り出せば神戸大学の特色をアピールできるのではないかと考えられるようになりました。

出荷箱から始まった

そんな中、手始めに「神大のきゃべつ」などと書かれたダンボールの出荷箱を作り、生産履歴書を添付して市場に出荷しました。2003年、最初の「神大ブランド」の誕生です。

ブランドとは生産者と消費者の間で交わされる約束であり、センター発の神大ブランドは学生と教職員がこだわりと責任をもって作り上げた生産物であることを意味しています。生産履歴書は栽培方法に関する消費者との立派な約束であり、パレィショ、ナシ、キャベツなど、専用出荷箱で販売した生産物は幸い好評を得、平均より高値で取引されました。さらに購入先より直接感想をいただける機会もあり、生産者の顔をオープンにすることの利点を実感しました。



「神大のたまねぎ」

「神戸大学ビーフ」が百貨店に

このような取り組みとともに、次にはセンターで飼育している黒毛和牛の牛肉が「神戸大学ビーフ」として百貨店の店舗で販売されることになりました。消費者との距離がもっと近くなったということです。

以前からセンターでは、広い牧草地で粗飼料を生産し、繁殖と肥育の一貫体制で牛肉を生産してきました。その肥育技術は高く、牛肉の品評会で何度か入賞したことがあるほどです。さらに農学研究科では和牛の改良の研究が盛んに行われており、脂肪の質を改善する遺伝子の発見や遺伝的能力を数値として表現する手法の開発など、和牛の改良事業において指導的役割を果たしてきました。しかし、それまではセンターから出荷した肉牛が最終的にどこで販売されていたのか、知る由もありませんでした。この大学の資源と知財を積極的に活用し、良質の牛肉生産へつなげていこうとする試みが「神戸大学ビーフ」発売のきっかけになっています。

神戸大学は当時、首都圏に東京オフィスを開設したように、情報収集と発信の重要性を強く感じており、牛肉についても神戸大学の知名度が劣る東京での販売を希望していました。そんな折、JA全農兵庫の仲立ちによりセンター産牛肉の販売先として東京の老舗百貨店が名乗り出てくれました。発売当初、

そんなものが売れるのかどうか、むしろ大学産ということで逆に買い叩かれるのではないかと関係者の不安をよそに、その反響は予想していたよりもずっと大きく、2005年春の発売開始から4年経った今でも売れ行きは好調です。

酒やジャガイモもブランドに

「神戸大学ビーフ」の成功を契機に、「神大のなし」「神大のばれいしょ」「神大のたまねぎ」など多くのブランド品をセンターは輩出し、百貨店、大手スーパーなどで販売されるようになりました。2006年からは純米大吟醸酒「神戸の香」を発売しています。これは兵庫県で育成された「杜氏の夢」という酒米新品種をセンターで栽培し、地元加西市の富久錦株式会社に醸造をお願いしている、名実共に産官学連携の日本酒です。翌2007年からはカルビー・湖南株式会社の協力を得て、センター産のジャガイモを原材料としたポテトチップス「らんらんチップス」を発売しています。



大吟醸酒「神戸の香」



百貨店の食品売り場



「らんらんチップス」

教育や研究にも意義

生産物をセンター産であると認知して消費者に買ってもらうことには、3つの意義があると思います。

まず、目に見える形で学生たちに最終産物を見せることができる点に、教育上大きな意義があります。農場実習は、直接イネや野菜を触っている間はいかにも栽培技術を学んでいるようですが、時には炎天下で汗を流して除草作業をしたり、延々と単調な調製作業をしたりすることもあります。これらの辛い作業も含めて農業であり食料生産であることは実感としてなかなか理解できないのですが、結果として生産物が出来上がり、消費者が金銭を支払って買うという行為が目に見えれば、一連の作業の必要性や意味が自ずとわかるようになります。これは農学研究科が掲げる「From Farm to Table」(農場から食卓まで)を実体験として理解する絶好の機会です。さらに、常に消費者を意識した姿勢が生まれ、いわゆる生産者意識を芽生えさせることにもなり、教育的な意義はとても大きいと感じています。

2つ目は研究における意義です。幸いなことに、大学の農場で生産されたという理由で一種の信頼感を持って、しかも少々高くても消費者に買っていただいています。したがって、まだ一般には知名度も低く安定供給ができない新品種でも、商品として販売することができます。そして、評価は生産した場所へ直接フィードバックできるので、品種の評価試験研究が行えるようになり、研究の向上にも貢献します。先に紹介した日本酒やポテトチップスはともに新規に育成された品種を原料にしていて、品種の普及にも手助けとなります。

3つ目は組織における意義です。大学名を冠した商品の販売は知名度を向上させ、教育研究における特色をアピールする格好の機会となってくれました。以前はマスコミに取り上げられたことなどなかったセンターの生産物が、多くの新聞、テレビ、雑誌などに取り上げられるようになったことがそれを如実に物語っています。

大学ブランドの使命

このようにセンター発の神大ブランドは幸い多くの消費者に支持され順調な売れ行きを見せていますが、手放しで喜んでばかりはいられません。日本の食料自給率は2007年度に13年ぶりに1%上昇しましたが、これは輸入農作物への不信感が背景にあると思われます。同じように大学ブランド商品がよく売れているのは、国内の農作物にさえいくばくかの不信感があり、消費者は大学という安心感を買っているからでしょう。食べ物は言うまでもなく安全・安心であるべきなのに、残念ながらそれを疑わなければならないほど生産者と消費者の間の約束が守られていないのが現状です。消費者との信頼回復の一助となることも、大学ブランド商品に課せられた使命だと思います。



地域に愛され貢献する農場に 体験学習、地産地消、直接販売…

国立大学は、2004年の法人化以後、社会との連携・地域貢献の重要性がますます高まっています。広大な農牧場を持つセンターでは、地域からの要請に応え、幼稚園児から小中高生、農業大学校生、一般社会人などの外部団体を様々な形で受け入れています。また、地元で生産されたものを地元で消費する、いわゆる「地産地消」により新鮮で安全安心な農畜産物を身近で手に入れることができます。センターにとっても、教育・研究の成果を地域へ還元できるという点において、重要な意義を持っています。

トライやる・ウィーク

兵庫県は考える教育の一環として、中学2年生に地域における職場体験「トライやる・ウィーク」を実施しています。センターは毎年6月に5日間、加西市立加西中学校の生徒を体験学習に受け入れています。生徒達はセンターの教職員とともに、田植えやサツマイモの植え付け、ナシの摘果・袋かけ、牛の飼養管理といった、農場ならではの作業に取り組んでいます。秋には恒例の収穫祭にも招待し、自分たちが植え付けたサツマイモを自らの手によって収穫し感動を味わってもらいます。

夏には農業大学校の学生が、ジャガイモ掘り実習を行います。また、たつの市立揖保川公民館が小学生を対象に主催している理科教室で、食育・環境教育として「牛と友達になろう」「野菜・果物の糖度を測ろう」などといったテーマでセンターの見学や体験学習を行っています。秋には加西市立九会小学校の児童が、センターの牛舎で牛の写生大会を楽しんでいます。その他、社団法人全国和牛登録協会の主催する講習会など、多種多様な団体を受け入れ、地域社会へ貢献しています。



理科教室で牛の勉強



カキの収穫体験



田植えを教わる



ナシの直接販売

直接販売に長蛇の列

センターは加西市と連携して、学校給食の場でも地産池消・食育推進に取り組んでいます。加西市の小学生が、実習学生の指導を受けて収穫したカキが、加西市の小中学校で学校給食に使用されています。また、秋にはセンターで収穫したナシ(幸水・豊水)を地域住民へ直接販売する日を設けています。いつも大変な盛況で、販売開始前から長蛇の列ができ、あっという間に完売となります。その他、2008年10月の1週間、神戸・三宮でJA全農兵庫が直営するレストラン・神戸プレジール(KOBE PLAISIR)で、センターで生産した食材(牛肉・カキ・サツマイモ)を使った料理が提供され、好評でした。



JA直営のレストラン

附属病院の患者食に

新たな取り組みとしては、2008年12月末から約1ヶ月の間、医学部附属病院の患者食に、センターの新米(ヒノヒカリ)を使用することが挙げられます。一部の病院や福祉施設に、カビ毒や残留農薬で汚染された事故米が、食用として転売されていたことが明るみに出たのがきっかけです。そのような事態に対して、センターで生産している安全安心な、おいしいお米の地産地消が実現しました。生産者である教職員・学生にとっても、病院の患者食に使用されることで医療に貢献できたうえ、お米を食べて喜んでくれる消費者を身近に感じることができました。



この特集は(写真左から)片山寛則講師、保坂和良教授・センター主事、大山憲二准教授、富岡隆志職員が担当しました。

神戸大学大学院農学研究科附属食資源教育研究センター

〒675-2103 兵庫県加西市鶉野町1348

電話 / 0790-49-0341

<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/ans-foodres/>

神戸大学ゆかりの歌

よく知られた童謡や流行歌の中に、神戸大学ゆかりの歌があります。
卒業生が作曲・作詞したり、キャンパスで撮影された映画の主題歌だったり。
ちょっと意外な縁をたどります。

東京オフィス・コーディネーター 植村達男

「月の沙漠」「お山の杉の子」

童謡の古典ともいべき「月の沙漠」。作曲者は、神戸大学発達科学部の前身校のひとつである姫路師範の卒業生佐々木すぐる(本名:佐々木英、1892~1966)です。

佐々木は、兵庫県高砂市の生まれ。しばらく郷里の小学校で教師を勤めたあと、援助を得て東京音楽学校(現東京藝術大学)に入学、1916年(大正5年)に卒業しました。「月の沙漠」の他にも、「お山の杉の子」「赤ちゃんのお耳」などがあります。「兵隊さんよ有り難う」など戦時童謡歌を作曲する一方で、日本教職員組合歌や、神戸市立西灘小学校はじめ全国の学校の校歌の作曲も手がけています。

「月の沙漠」は、大正から昭和初期に叙情的な挿絵画家として人気を博した加藤まさをが、講談社発行「少女倶楽部」

1923年3月号に発表した「詩と挿画」から構成した作品。これに、まだ若手作曲家であった佐々木が曲を付けたのです。

当初は児童の音楽教育の中で使われていましたが、1927年にラジオ放送されたことから評判となり、1932年に柳井はるみが歌いレコード化され、より一般に知られるようになりました。柳井はるみは、後に松島詩子(まつしま・うたこ)として歌謡界で活躍しています。

千葉県夷隅郡御宿町には、主として作詞者加藤を顕彰する「月の沙漠記念館」があります。これは、加藤が御宿海岸をモチーフとして「月の沙漠」の詩を書いたからです。

【参考】 八木真平『兵庫の音楽史』(1988年、神戸新聞出版センター)



御宿海岸に立つ「月の沙漠記念像」。奥にラクダで行く王子と王女、手前に三日月

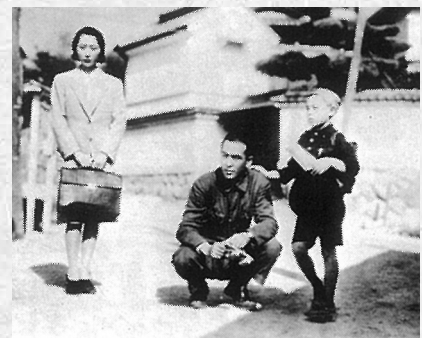


「月の沙漠記念館」(いずれも「月の沙漠記念館」提供)

「新雪」

「紫けむる 新雪の…」で始まる歌謡曲「新雪」(歌:灰田勝彦)。この歌は、藤沢桓夫の小説(1941年に朝日新聞連載)が1942年、大映により映画化された際の主題歌です。主演の月丘夢路は一躍、全国的に知られるようになりました。阪急六甲を中心に、高羽小学校をはじめ六甲、御影あたりで3ヶ月くらいロケが行われたそうです。

六甲登山口にあったレストランで、神戸商業大学以来の学生の溜り場だった「エクリン」が、ロケ隊の食事の場所に使用されました。神戸大学関係者の手で編集された『エクリンの50年』で徳末謙二(1942年、神戸商業大学卒)は、学生時代にロケ中の月丘夢路に出会い、「清楚な姿に全身が震えた」と回想しています。この映画は戦時中、中国大陸でも慰問のため上映され、兵隊として戦地にあった神戸商業大学の卒業生たちは、スクリーン上で母校に近い風景を見て涙した。そんな“伝説”も伝えられています。



新雪© 1942 角川映画
写真協力(財)川喜多記念映画文化財団

【参考】 エクリン50周年記念事業実行委員会編『エクリンの50年』(1986年、私家版)

「港が見える丘」「君待てども」

戦後間もない1947年(昭和22年)、ビクターの新人歌手平野愛子が歌い大ヒットした「港が見える丘」。この歌の作詞・作曲をした東辰三の本名は山上松蔵(1900~1950)といいます。日本ビクターの音楽部長をつとめた人物でした。

山上は東京の出身で、1923年に神戸高商(現神戸大学経済・経営・法学部等の前身)を卒業。一時神戸の商社に勤務したのち、東京に戻り家業を継ぎました。その後、音楽の才能を買われて日本ビクター入りをしたようです。

横浜には、「港が見える丘」と一字違いの「港の見える丘公園」があります。歌が世に出た後の1962年になって開設されました。1999年、東辰三の子息で作詞家の山上路夫も発起人の一人となり、詩碑が建てられました。そんなことから一般には、「港が見える丘」は横浜ゆかりの歌と思われています。しかし、

東辰三が青春期を送った神戸時代を歌ったとして、「歌の舞台は神戸である」という説があります。神戸高商の学友による裏づけ発言等も出ています。

横浜vs.神戸。現在のところは、山上路夫の言葉「あの歌のメロディーは、父が東京の自宅で入浴中に浮かんできたそうです。父が亡くなった時、十三歳でしたので、どこが歌の舞台なのか、よくわかりません。二つの港町のイメージをだぶらせて作ったのではないのでしょうか」が結論のようです。

東辰三には、「荒鷺の歌」(軍歌)、「君待てども」、「泪の乾杯」、「恋も泪も夜の雨」等の作品もあります。

【参考】朝日新聞横浜支局・神戸支局編「横浜・神戸二都物語」(1991年、有隣堂)

港が見える丘
 あなたと二人で 来た丘は
 港が見える丘
 色褪(あ)せた桜 唯一つ
 淋しく 咲いていた
 船の汽笛 咽(むせ)び泣けば
 チラリホラりと 花片(はなびら)
 あなたと私に 降りかかる
 春の午後でした



歌碑「港が見える丘」(横浜市の「港の見える丘」公園で)



東辰三作曲
「恋も泪も夜の雨」のジャケット

「ハイハイ三人娘」

中尾ミエ、園マリ、伊東ゆかり主演の宝塚映画「ハイハイ三人娘」は、1963年に封切られました。ロケが神戸大学のキャンパスで行われ、正門や階段、本館と前庭、図書館(社会科学系)のシーンがあります。前庭の芝生でおしゃべりする三人娘の遠景には、新設間もない工学部の学舎が写っています。主題歌「ハイハイ三人娘」は、それほどポピュラーではないかもしれませんが、神戸大学ゆかりの歌であることは確かです。

【参考】DVD「ハイハイ三人娘」(2008年、東宝)



新学長に福田秀樹教授



質問に答える福田秀樹・新学長(08年11月28日、記者会見で)

野上智行学長の任期が2009年3月末で満了するのに伴い、次期学長選を進めていた神戸大学学長選考会議は2008年11月27日、自然科学系先端融合研究環長の福田秀樹教授を学長予定者に決定し、公表しました。福田新学長の任期は、2009年4月1日から4年間です。

福田新学長は生物化学工学の専門家、大手化学メーカーの研究員などを経て、神戸大学工学部の教授になりました。民間企業の出身者が学長に就くのは、神戸大学では初めてのことです。2007年4月からは、自然科学の学際的研究を推進する自然科学系先端融合研究環長を務めました。学長予定者に決まった直後の記者会見では「神戸大学を世界最高水準の教育・研究の場にしたい」「企業人の経験を生かし効率的な大学運営を目指す」などと、抱負を語りました。

神戸大学は2008年6月、学長選考規則を改正し、経営協議会や教育研究評議会で選出された委員で構成する学長選考会議が中心になって、学長予定者を決めることになりました。今回は規則改正後、初めての学長選考で、学長候補適任者として2人が推薦されていました。

野上前学長は発達科学部長などを経て、2001年2月に学長就任。法人移行の激動期をリーダーとして乗り切り、大学の進路を指し示す「神戸大学ビジョン2015」の策定などに貢献しました。

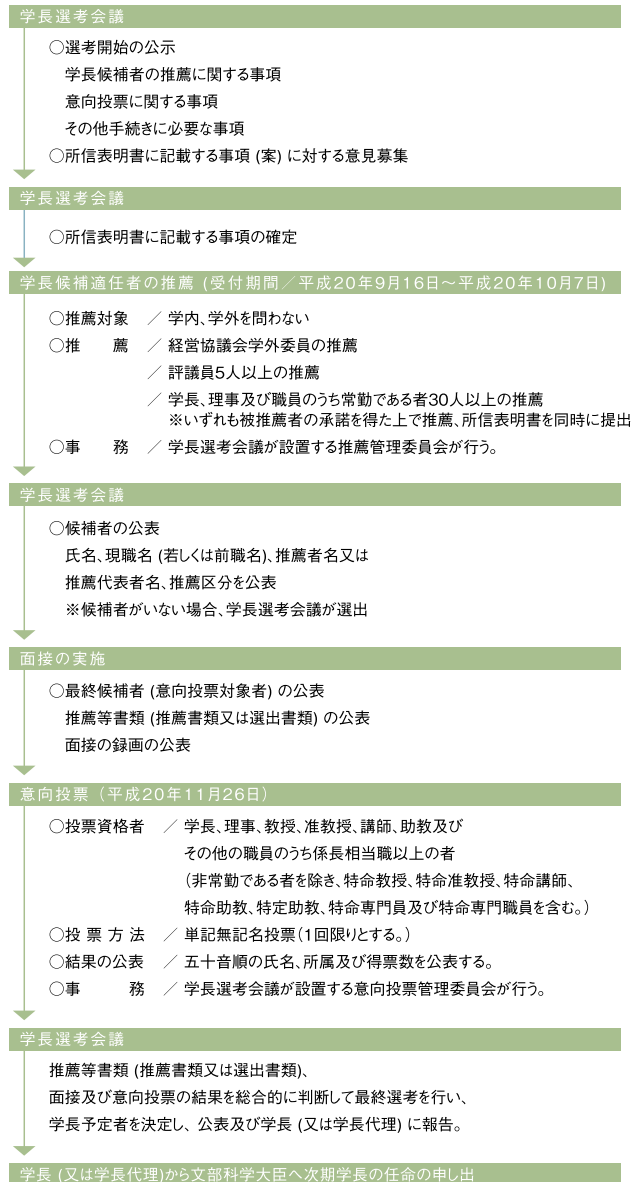


野上智行・前学長

新学長略歴

1947年	2月21日	生まれ
66年	4月	京都大学工学部化学工学科入学
70年	3月	同上卒業
70年	4月	鐘淵化学工業株式会社入社(94年3月退社)
80年	11月	工学博士(京都大学)
82年	7月～	
84年	12月	英国マンチェスター工科大学客員研究員
94年	4月	神戸大学工学部教授
94年	6月	神戸大学大学院自然科学研究科教授
99年	5月	神戸大学評議員
2001年	8月	Bio-energy(株)取締役副社長兼務
03年	2月	神戸大学大学院自然科学研究科長
07年	4月	神戸大学自然科学系先端融合研究環重点研究部教授
07年	4月	神戸大学自然科学系先端融合研究環長

学長選考の流れ



海事博物館に卒業生ボランティア



入館者に説明する卒業生ボランティア(右から2人目)

1967年に開設された神戸商船大学海事資料館は、神戸大学との統合を機に2004年10月、海事科学部海事博物館に衣替えしました。寄贈品の増加などで収蔵品が充実する一方、意欲的な企画展の開催などで、一般の来館者が増えています。その対応など、博物館の活動を裏方として支えているのが、海神会(海事科学部同窓会)会員の有志10人ほどでつくる「博物館ボランティア」です。

発足のきっかけは、1995年の阪神・淡路大震災でした。大被害を受けた海事資料館の収蔵品の修復、整理、データベース化に、同窓会の有志が関わりました。海事博物館になって「一般開放」「常時開館」を目指すさい、メンバーの大部分が続いてボランティアを引き受けたのです。

2005年4月から当番を作り、月、水、金曜日の午後、博物館に詰め、来館者への説明と管理を担当しています。また、企画展「引き札展」、市民セミナー「高田屋嘉兵衛と北前船」などのイベントで、海事科学部に協力しています。メンバーは神戸市立博物館を見学して専門家から指導を受けたり、甲南大学の学芸員養成コースの授業を聴講したりして、知識を深めています。

大学内に設けられ、市民に開放されている海事博物館。メンバーは今後も、ボランティアとして模索を重ねながら、小中学生を含め大勢の方々への海事思想の普及を目指し、活動を続けていきます。

(海神会事務局 天野俊夫)

海事博物館の詳細やイベントの案内は、ホームページをご覧ください。

<http://www.museum.maritime.kobe-u.ac.jp/>

育友会の2008年度地区支部会が開かれました

育友会の地区支部会は、大学との連携強化を図り、会員皆様の要望などを大学運営に反映し、社会のニーズに対応した大学づくりを目的に、2005年度から試行的に「東日本」「中部」「中国・四国・九州」の3地区で開催しています。

08年度のトップをきって9月20日、福岡市内のホテルで中国・四国・九州地区支部会を開き、会員約40人が参加しました(写真)。これまでは広島市で開いていましたが、初の九州開催は出席者から好評でした。続いて10月4日、神戸大学東京オフィスで東日本地区支部会を開催。遠くは新潟県などから、計14人の会員が出席しました。そして締めくりに10月25日、名古屋市内のホテルで中部地区支部会を開催し、富山県などから約30人の出席がありました。

3会場とも支部長に司会をお願いし、出席した学長、副学長が大学の沿革から運営の現状、学生生活支援、就職進学について説明。昨年に続いて参加した会員から「配付資料が増え、細くなったのはよかった」などの意見がありました。引き続き行われた懇親会は時間を大幅に延長して、大学関係者を囲んで忌憚のない意見が交換され、会員間での親睦も深まりました。

例年の日曜日から本年度は土曜日開催としましたが、参加者はやや少なめでした。会員から「土曜日は仕事があるので日曜日の方がいい」といった意見をいただき、今後の参考にいたします。

■ 神戸大学育友会への入会について(お願い)

本会は、保護者の皆様から納めていただいた会費により、課外活動の援助や大学の発展に寄与する各種事業を行っています。多数の方々のご入会に感謝するとともに、会費は次の事業目的に有効に使わせていただきますので、趣旨をご理解のうえ、まだご入会いただいていない場合は是非ともご入会いただきますよう、よろしくお願いたします。

1. 事業目的

- ① 教育上必要な学生関係行事や課外活動の援助などを行い、充実した学生生活が営まれるよう種々の事業を行う。
- ② 学生生活に有益な大学の情報を提供するとともに、会員相互の親睦を図る。

2. 会費の納入等

会費の納入等の詳細は、次へご連絡願います。

神戸大学学務部学務課総務係 電話/078-803-5210



神戸大学 卒業生ネットワーク<KU-Net>が始まりました



前理事・副学長
(評価・同窓会担当)

中野 常男

平成20年12月18日から、卒業生(大学院の修了生を含む)の皆様方と大学、及び卒業生の皆様方同士の緊密な連携を支援するための情報システム、「神戸大学卒業生ネットワーク」(Kobe University Alumni Network—略称「KU-Net」)の本格的運用を始めました。

単なる卒業生名簿にとどまらない、卒業生に焦点を定めた多機能の情報システムを運用している大学の例は多くありません。神戸大学でも、その創立以来継承される「真摯・自由・協同」の精神、特に卒業生の皆様同士、そして卒業生と母校との「協同」を実現するための支援ツールとしての情報システムの構築が法人化の前から企画されてきましたが、今回の<KU-Net>の導入によって、ようやくその基礎的情報基盤が整備されました。

<KU-Net>は、卒業生の名前や卒業学部・卒業年度等のデータはもとより、神戸大学をめぐる最近のニュースやホームカミングデイのご案内など、大学から卒業生の皆様方に向けた各種情報の提供、さらに、そこに組み込まれた「私書箱」機能を利用することにより、卒業の学部や年度、居住地、課外活動団体等はもちろんのこと、これらの枠を超えて卒業生の皆様方同士が相互にコミュニケーションできる多機能の情報システムです。

<KU-Net>のご利用にあたっては、個人情報保護の観点から、卒業生の皆様方ご自身より「利用登録」を行っていただく必要があります。「利用登録」は神戸大学ホームページ(<http://www.kobe-u.ac.jp>)にある「神戸大学卒業生ネットワーク」(KU-Net)のページからお申し込みいただけます。ただし、平成21年3月以後に卒業(修了)される皆様方には、卒業後の4月中旬以降に大学から「KU-Netの利用登録」に関するご案内の文書を送らせていただきますので、その記載内容にしたがってご登録ください。

<KU-Net>は、できるだけ多くの卒業生の皆様方による登録があつてはじめてその機能が発揮できるシステムです。これから卒業される方々には是非とも「利用登録」をお願いいたします。また、保護者の皆様方におかれても、上記「KU-Netの利用登録」のご案内が卒業生のお手元に届くよう、ご協力のほどお願い申し上げます。

お問い合わせ先:企画部社会連携課
電話:078-803-5042
E-Mail: alumni@office.kobe-u.ac.jp

Kobe University Alumni Network

神戸大学卒業生ネットワーク「KU-Net」 卒業生と大学との絆を深めるネットワークを築きます

ようこそ「KU-Net」へ

神戸大学は、神戸大学卒業生ネットワーク (Kobe University Alumni Network) 「KU-Net」を開設しました。卒業生の皆様と本学及び卒業生同士の緊密な連携を図るため、卒業生の皆様が、「とき」と「ところ」に関わりなくネットワークを築き、生涯にわたって相互に絆を保てるよう、インターネットを利用した卒業生の皆様への新たな環境をご用意するものです。是非ご登録ください。

「KU-Net」では

- ・インターネット上で利用登録された卒業生を検索できます。
- ・大学からの各種お知らせ等閲覧することができます。
- ・卒業生同士がコミュニケーションを図ることができます。

KU-Net

初めての方

登録済みの方

パスワードを忘れた方はこちら

ようこそ ホームカミングデイへ



ティー・パーティー

第3回神戸大学ホームカミングデイが2008年9月27日、留学生ホームカミングデイと合同で開催されました。爽やかな秋晴れのもと、卒業生、在学生、保護者、名誉教授、教職員、近くの住民ら、合わせて1750人が集いました。

全体企画の幕を開ける記念式典は午前11時、六甲台キャンパスの講堂で、NHKアナウンサー住田功一さん(1983年経営学部卒)の司会で始まりました。野上智行学長は式辞の中で、タイムズの世界大学ランキングに今年もランク入りしたことを報告し、「世界で活躍される先輩のみなさんのおかげ」と感謝しました。あいさつに立った同窓生代表の新野幸次郎・学友会会長は「大学運営には卒業生のサポートが欠かせない時代になった」と強調し、神戸大学基金への協力を呼びかけました。

続いて、Jリーグ・浦和レッズでプレーしたあとイギリス留学でMBAを取得し、今は執筆などで活躍する西野努さん(1993年経営学部卒)が「サッカーとビジネスリーダーシップ～神戸大学が与えてくれたもの」と題して講演。最後にマンドリンクラブが、4曲をメモリアル演奏して締めくくりました。

正午過ぎからは、六甲台本館前に架設したドーム型テントでティー・パーティーを開き、軽食と飲み物で歓談。朝山くみアナウンサー(1999年経済学部卒)の進行の下、課外活動団体の紹介や応援団総部の学歌斉唱・応援エールと続き、大きな拍手がわきました。



キャンパスツアー

この後は各学部会場を移し、工夫をこらした企画を楽しみました。構内は数年前から大規模な耐震工事が進められており、卒業生はきれいに改修された建物に驚いていました。家族連れで来られた方も多く、同時に催された神戸大学史特別展や山口誓子記念館でのお茶のおもてなし、附属農場生産物の販売や学生による模擬店など、それぞれに母校の一日を楽しみました。

留学生ホームカミングデイは今年で5回目を迎え、留学生をはじめ250名が参加し、六甲ホールで開かれました。韓国伝統音楽「サムルノリ」の迫力あるオープニング演奏でスタートし、野上学長は「本学にとって留学生は、かけがえのない存在であり財産です」と、祝辞を述べました。

2009年のホームカミングデイは、留学生ホームカミングデイとの合同で10月31日(土)の開催です。記念式典は、皆様のご寄附により改修されることとなった六甲台講堂で行われる予定です。

ホームカミングデイの様子は、神戸大学ホームページ <http://www.kobe-u.ac.jp/alumni/HCD.htm> でご覧いただけます。

お問い合わせ先：企画部社会連携課
TEL：078-803-5414
E-Mail：plan-hcd@office.kobe-u.ac.jp



留学生ホームカミングデイ

保健管理センターだより



神戸大学「麻疹(はしか)登録制度」がスタート!

・・・麻疹排除に向けて新たな取り組み

毎年のように繰り返される麻疹(はしか)の流行。神戸大学では麻疹の予防と、学内での感染の拡がりを防ぐため、「麻疹(はしか)登録制度」をスタートさせました。麻疹の予防接種を済ませた人と、発症を防ぐのに十分な免疫(血中抗体価)を持っている人には登録済証(図1)を発行します。麻疹の流行によって授業への出席停止措置やキャンパスへの立入禁止措置がとられた場合、この登録済証を持っている人だけが、引き続き授業に出席し、キャンパスに立ち入ることができるようになります。また、登録済証を持っていると、麻疹が流行しても、各種の実習や、対外試合などを含む課外活動に参加することができます。

全学休校や休講措置では解決できないことも・・・

神戸大学では平成 19(2007)年の春以降、麻疹にかかったことがない人や、麻疹ワクチンの予防接種を幼少時にしか受けていない人に、麻疹ワクチン[または麻疹・風疹混合ワクチン(MR ワクチン)、以下同様]の接種を受けるよう呼びかけてきましたが、昨年も 7 月初め頃から麻疹を疑われる患者さんの発生があり、血液検査の結果、最終的に 11 人が麻疹と確定しました。その内 2 人は入院となっています。神戸大学におけるこの年の麻疹流行の特徴は、経済学部と、特定の課外活動施設に練習の場を置く課外活動団体に患者さんが集中したことで、経済学部では 2 週間の休講措置がとられ、該当する課外活動団体でも 2 週間の活動停止措置がとられました。また、六甲台キャンパスで予定されていた「七夕祭」も中止となりました。幸い、患者さんから保健管理センターへの連絡が早く、授業・課外活動・住居などで接触のあった人(濃厚接触者)に対する麻疹ワクチンの接種を推進できたこともあり、それ以上の感染の拡がりはありませんでした。麻疹ウイルスに感染してから 72 時間以内であればワクチンを接種することで発症を防げる可能性があるのです。ただ、一昨年の全学休校措置にしても、昨年のこうした措置にしても、大学からの呼びかけに応じて既に麻疹ワクチンの予防接種を済ませていた人までもが授業に出席できなくなったり、キャンパスに立ち入れなくなったり、対外試合などを含む課外活動に参加できなくなったりしてしまうという課題を残すことになりました。

幼少時の予防接種だけでは不十分

麻疹は麻疹ウイルスによる感染症で、肺炎や脳炎といった合併症を併発して重症化する人は 5 歳未満の幼児と 20 歳以上の成人に多いとされています。麻疹は感染力が強く、発症してしまうと特別な治療法がないため、麻疹ワクチンの予防接種を受けておくのが一番です。麻疹ワクチンの予防接種は、平成 18(2006)年に 2 回接種(1 歳と 5 ~ 7 歳の就学前)となるまで 1 歳時に 1 回のみしか行われていませんでした。このため、予防接種から 10 年以上を経て効果が薄れ、麻疹の発症を防ぐのに十分な免疫をもっていない人が高校生や大学生に多くなっていることが、この年代を中心に麻疹が流行していることの原因の一

つと考えられています。神戸大学でも今回、麻疹と確定した 11 人の内、予防接種を受けたことなかった人が 3 人、幼少時に 1 回のみしか予防接種を受けていなかった人が 7 人、不明が 1 人でした。また、平成 20(2008)年 4 月の新入生健康診断時の 4 種類の感染症(麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎)に関する血液検査でも、麻疹の発症を防ぐのに十分な免疫(血中抗体価)を持っている人は 77.9 %で、風疹の 76.9 %とともに、集団発生を予防するために必要とされる 83 - 94 %(風疹は 80 - 85 %)を下回っていました。

大学が抗体検査料を一部負担、予防接種の無料実施も!

こうした状況を受けて神戸大学では、大学院生や研究生等を含む全ての在学生について、麻疹の発症を防ぐのに十分な免疫を持っているかどうかを調べる血液検査を、費用の一部を負担して行うこととし(受検者の自己負担は 1,000 円のみ)、免疫(血中抗体価)が不十分な方については麻疹ワクチンの予防接種を無料で実施(学外の医療機関等で麻疹ワクチンの予防接種を受けた方には平成 20(2008)年 4 月まで遡って費用を返金)することにしまし



この登録済証は、神戸大学麻疹登録制度に基づき、次のいずれかに該当する方に神戸大学が交付しているものです。

1. 過去 5 年以内に麻疹ワクチン(または麻疹・風疹混合ワクチン)の接種を受けた方
2. 過去 5 年以内に麻疹の抗体検査を受け、麻疹の発症を防ぐのに十分な血中抗体価 (IgG-EIA法で 8.0 以上、PA法で 128 倍以上、NT法で 4 倍以上の陽性のいずれか) を有している方
3. 麻疹に関する罹患歴証明書を提出した方

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
神戸大学
(問い合わせ先: 神戸大学保健管理センター Tel: 078-803-5245)

(図1) 神戸大学「麻疹(はしか)登録制度」における登録済証
表(上)には学籍番号・氏名と登録日が、裏(下)には登録済証の交付を受けることのできる条件が記されている。

た。こうして 11,993 人(新入生健康診断時に 4 種類の感染症に関する血液検査を受検した人を含む)が血液検査を受検し、3,334 人(血液検査を受けずに麻疹ワクチンの予防接種をした人を含む)が麻疹ワクチンの予防接種を受けました。その結果、麻疹の発症を防ぐのに十分な免疫(血中抗体価)を持っていることが明らかな人と、麻疹ワクチンの予防接種を受けた人、および麻疹に関する罹患歴証明書を提出した人の合計は 12,596 人となり、残る 4,865 人についても 77.9 %は免疫を持っているとした場合、全体の推定抗体保有率は 93.8 %まで向上しました。

「麻疹(はしか)登録制度」と登録済証

神戸大学ではこれを機に、さらに安全な教育・研究環境をめざし、麻疹による全学休校や休講措置といった事態を繰り返さないためにも、また、麻疹ワクチンの予防接種を済ませた人までもが授業に出席できなくなったり、キャンパスに立ち入れなくなったり、対外試合などを含む課外活動に参加できなくなったりしてしまうという課題を解決するためにも、「麻疹(はしか)登録制度」を制定することにしたものです。大学院生や研究生等を含む全ての在学生の皆さんには、① 過去 5 年以内に麻疹ワクチンの接種を受けたことを証明する「予防接種証明書」か、② 過去 5 年以内に麻疹の抗体検査を受け、麻疹の発症を防ぐのに十分な血中抗体価(測定方法によって異なり、IgG-EIA 法で 8.0 以上、PA 法で 128 倍以上、NT 法で 4 倍以上の陽性のいずれか)を有していることを証明する「抗体検査結果証明書」を大学に提出していただき、提出者には登録済証を発行します。昨年、学内で麻疹ワクチンの接種を受けた人や、学内で実施の血液検査で上記のことが判明している人、麻疹に関する罹患歴証明書を提出した人については、これらの証



(図2) 保健管理センターにおける
「からだの健康相談」(上)と
「こころの健康相談」(下)



● お問い合わせ

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町 1-1
[神戸大学保健管理センター] ☎078-803-5245
〒658-0022 神戸市東灘区深江南町 5-1-1
[神戸大学保健管理センター深江分室] ☎078-431-6232

明書を提出したものと扱われます。未だワクチン接種も抗体検査も受けていない皆さん…早めに医療機関等を受診し、「予防接種証明書」や「抗体検査結果証明書」を保健管理センター(医学部、医学研究科、保健学研究科は各学部・研究科の教務学生係)に提出して登録済証の交付を受けてください。

平成 21 年度新入生からは、麻疹に加えて風疹も!

日本における麻疹の患者数は毎年 1 万人を越え、年間の患者数が 100 人にも満たないアメリカなど麻疹対策の先進国からは、「日本は麻疹輸出国」などと揶揄されています。世界保健機関(WHO)が打ち出した麻疹排除計画もあり、日本では平成 18 (2006) 年から麻疹ワクチンの予防接種(原則として MR ワクチンを使用)を 2 回接種にするとともに、平成 20 (2008) 年 4 月から 5 年間、2 回接種の対象から漏れる中学 1 年生(第 3 期予防接種)と高校 3 年生(第 4 期予防接種)に相当する年齢の人に麻疹ワクチン(原則として MR ワクチンを使用)の予防接種を無料または一部自己負担(自治体によって異なります)で受けられる機会を設けることにしました。しかし、その摂取率は平成 20 (2008) 年 12 月 31 日現在、第 3 期 66.1 %、第 4 期 58.1 %と決して高くありません。神戸大学では平成 21 (2009) 年度新入生から、麻疹とともに風疹に関する「予防接種証明書」または「抗体検査結果証明書」を提出していただくこととし、募集要項にも謳っています。こうした取り組みが、大学における麻疹・風疹対策としてだけでなく、第 3 期・第 4 期予防接種に向けた動機付けとなり、日本における状況の速やかな改善に繋がればとも願うものです。

参 考

新入生に麻疹、風疹、水痘、流行性耳下腺炎の抗体検査!…集団発生の防止に向けて、KOBE university STYLE, 9: 19-20, 2008
多屋馨子:麻疹排除に向けて ~2007 年の麻疹流行から得られたもの~, 兵庫県医師会, 兵庫県(主催)平成 19 年度感染症研修会レジュメ
麻疹に関する特定感染症予防指針, 厚生労働省告示第 442 号, 平成 19 年 12 月 28 日
MEASLES ELIMINATION, World Health Organization Regional Office for the Western Pacific, 2005
国立感染症研究所、感染症情報センターホームページ
(<http://idsc.nih.go.jp/index-j.html>)
厚生労働省ホームページ
(<http://www.mhlw.go.jp>)

保健管理センターは…

六甲台キャンパス(本部管理棟2階)と深江キャンパスにあり、毎年の健康診断やその結果に基づく再検査・精密検査をはじめ、日常の救急処置、健康相談(「からだの健康相談」、「こころの健康相談」)、保健指導、健康教育、産業系活動、調査研究活動などを通じて、学生や職員の皆さんの健康をサポートしています。また、楠キャンパスと名谷キャンパスには「からだの健康相談」のための保健管理室と「こころの健康相談」室が設置されています。

● 保健管理センターだより 74

(神戸大学広報誌「六甲ひろば」から引き続き連載)
保健管理センターの詳細につきましては、
保健管理センターホームページでも案内しています。

<http://www.kobe-u.ac.jp/medicalc/index-j.html>

神戸大学の文化財〈その3〉

国登録有形文化財「神戸大学兼松記念館」

神戸大学には、国の登録有形文化財が4つある。

いずれも前身校の一つである旧制神戸商業大学の建物として1930年代前半に設置された。

今回はその一つ、兼松記念館を取り上げてみたい。



神戸大学兼松記念館(現在)

■ 建物について

現在、兼松記念館には、神戸大学唯一の附置研究所である経済経営研究所が置かれ、また大学院法学研究科・経済学研究科・経営学研究科の教員研究室としても一部利用されている。戦後に建てられた学舎とは異なり、広い室内は天井も高く外壁が重厚であるため、威厳に満ちた静寂がある。

旧神戸商業大学兼松記念館として1933(昭和8)年7月1日に起工、約1年間の工事期間を経て翌年6月25日に竣工し、現在の経済経営研究所の前身である旧商業研究所が置かれた。建築面積1,172㎡。総工費28万6000円。鉄筋コンクリート造3階建て(一部2階建て)。外壁の淡黄色スクラッチ・タイル張りや半円アーチ窓は、他の3つの文化財との共通デザインであるが、軒下のロンバルディア・アーチは無くシンプルな意匠となっている。車寄せ玄関の上部には、旧兼松記念館から移した旧制神戸高等商業学校初代校長水島鏡也書「兼松記念館」の門標がはめ込まれている。2階中央には「記念室」(非公開)があり、その重厚かつ優美な内装は見応え十分である。



兼松記念館2階の記念室。正面の壁には兼松房治郎の肖像画が飾ってある

■ 兼松房治郎

兼松記念館の名称は、旧制神戸高等商業学校商業研究所の施設として1920(大正9)年に建設された旧兼松記念館(設計武田五一、現存せず)に由来する。旧記念館の建設にあたっては兼松翁記念会から多額の寄付が寄せられた。兼松翁とは兼松株式会社の創業者として名高い兼松房治郎のことである。兼松は1845(弘化2)年大阪に生まれ、1889(明治22)年45歳で神戸市栄町5丁目に日濠貿易兼松房治郎商店(現在の兼松株式会社)を創立し、日本-オーストラリア貿易の先駆者となった。1913(大正2)年神戸市諏訪山の自宅で永眠(享年68歳)。日本が誇る国際的実業家の一人である。

兼松記念館2階の記念室には、オーストラリア人画家Norman Carterが描いた兼松の肖像画が飾っており、さらに前庭にも、兼松の胸像が設置されている。

なお、本建物は昭和初期の学校建築の好例であり、2003(平成15)年3月18日に「造形の規範となっているもの」として国の登録有形文化財に登録され、同年4月8日文部科学省告示第69号により告示された。登録番号は第28-0119号である。

(神戸大学百年史編集室講師 野邑理栄子)

白陵寮歌

作詞／谷 義衛
作曲／南 恒郎



あゝ はく りょう の はる の よ い
せ き しゅん の ふ の な が れ き て
りょう の と も し び お の の け ば
さ び れ を し た う お の こ ら が
わ か き ち し お の お ど る か な

(楽譜作成には応援団総部吹奏楽部の協力を得ました)

へ宣誓

先人力強く営める白陵の起伏にも
滔々として流れをなせる時運の歩みにも
若人が真情の流露は凝って一連の歌草となり
その清にして純なるその簡にして勁なる
以つて痴人の蒙を啓すべく
以つて懦夫をして立たしむべし

されば春の朝高く吟ずる時は
高調乱舞の調べとなり
冬の夕べ低く奏する時は
哀愁悲調の曲といひ
げにうら若き口辺を飾るに足らむ
我等にして若き誇りを思うとき
なぞ寮歌を愛せざるをべけんや

友よ!

よしなきことを嘆く暇だにあらば
高欄によりて青春の一刻
しばし憂いを捨てよかし
いざ歌わんかな我等が寮歌を
アイン・ツヴァイ・ドライ!

一、

あゝ白陵の春の宵
惜春の譜の流れ来て
寮の灯おののけは
さびれを慕う男の子等が
若き血潮のおどるかな

二、

潔きをさとす白鷺城
月光斜に照り添いて
高き理想に燃ゆる時
情熱の子等は乱舞する
享楽の心ゆくままに
(以下略)

大正13年4月に創立された旧制姫路高校は、名城白鷺城の名に因み校章は鷺を配し、学生寮は白陵寮と称した。大正14年、その寮歌として作成されたものである。昭和25年に神戸大学姫路分校となり、同39年に教養課程が六甲台に集約されるまで、神戸大学入学者の約半数が1年半の教養課程を姫路分校で学び、旧制高校の雰囲気を感じた。
(神戸学術事業会製作CD「神戸大学愛唱歌集」より)

神戸大学広報室 発行 2009年 4月 1日

〒657-8501 神戸市灘区六甲台町1-1 TEL.078-803-5022 E-mail : ppr-kouhoushitsu@office.kobe-u.ac.jp



<http://www.kobe-u.ac.jp>